

まなざし

令和2年度

立山町立釜ヶ淵小学校

第2学年 学年だより

11月号

全力を尽くすことの美しさを ～思いを 示せ！～

「人は全力を出し切った時に、次のステージへと大きく飛躍する」

一年間の行事で、心の底から本気になって全力を注ぎ、自分の力を出し切る成就感を味わえる機会は、ほとんどありません。2年生は、その大きなチャンスを学習発表会と捉え、自分らしく表現することやしっかり声を出すこと、フラフープを十八番とする努力を1学期からこつこつと積み重ねてきました。そして、いよいよ学習発表会。自分の思いを表現し、他者に届ける喜びを心から味わえ、さらに多くの観客の方から評価を受けられる千載一遇のチャンスに、子供たちはどのように取り組んでいったのでしょうか。

学習発表会予行練習前のAさんの日記です。

わたしは、学習はっぴょう会に向けてがんばっています。2年生のはっぴょうは、「フラフープ」です。それで、フラフープを1回もおとさないことを自分のもくひょうにきめました。また、おきやくさんにとどくように大きくせりふを言うことも、がんばりたいです。フラフープで1回もおとさなかったら、「パワフルっ子ど」100点まん点です。せりふも大きくおきやくさんにとどくように言えたら、150点です。どちらもできたら、おきやくさんやおうちの人に「すごいね。がんばったね。」と、ほめてもらえて、うれしいからです。

Aさんは、学習発表会における自分の目当てを決めていました。また、劇の演技やフラフープをどのようなレベルまで引き上げることで、「パワフルっ子度」が100%や150%になるのか、具体的な姿で思い描いていました。さらに、やり遂げた時にみんなに褒めてもらっている、成功した自分の姿を思い描いているところも、すてきでした。このような気持ちがあったからこそ、いつも前向きに自分の演技を高めていこうとすることができたのですね。

Aさんのような気持ちを一人一人がもち、予行練習を迎え、全校児童の前で発表しました。みんなに見られているということで、緊張感が高まりました。先生の出した点数は、85点。せりふは早くなるし、ジェスチャーは間違えてしまうし、子供たちは満足できる結果を得ることはできませんでした。

予行でうまくできなかつたくやしさを糧に、今度こそはという意気込みで、子供たちは本番に向けて練習を続けました。ちょっとやそつとでは、へこたれないのが2年生の取り柄。一人一人が、どこをどのように直していけばよいのかを意識して、その後の練習に取り組み、自信を大きく膨らませていきました。しかし、練習をすればするだけ、うまくなればなるだけ、本番の重みは、プレッシャーという形で子供たちの前に、立ちはだかつてきました。



学習発表会直前の聞き合いの時間。

C 1 : 私は、大きな声を出せるか不安で、ドキドキしています。

C 2 : 私もフラフープは、ちゃんと回せるか不安で、とてもドキドキしています。

C 3 : 私も似ていて、他のお客さんに見られているからちゃんとしたいけど、不安でドキドキしています。

Tさん：ぼくは、わくわくした気持ちです。わくわくした気持ちで、全力の気持ちを伝えたいです。

Yさん：本番は、一発勝負。やり直せないから、自信のない自分を、わくわくした気持ちで塗りつぶしてがんばりたいです。

C 4 : でも、フラフープを落としたり、あの子、落としていると思われるかもしれない。

Kさん：だけど、これまで、いっぱい練習した成果はあるから。

Aさん：私は、いっばいの練習をしてきたんだから、分かってもらえるはずだと思います。練習の成果を見せたいです。

不安感やドキドキする気持ちなど、素直に弱い自分を出しながらも、わくわくした前向きな気持ちで、自分の弱さと戦っていこうとする子供たちの健気さが感じられる聞き合いの時間でした。聞き合いの最後には、明日の本番は、「ドキドキ」と「わくわく」の両方の気持ちはあるけれど、わくわくした気持ちで自分たちの全力を示そうということで、2年生の気持ちは一つになっていきました。



いよいよ本番。最初のナレーションは、大きな声で、ジェスチャーを交えて、いいスタートです。村の子供たちのせりふは、ゆっくり言えています。鐘がなって、悪い魔法使いたちの登場。止まる動作をオーバーに、笑い方もとても愉快です。再度、村の子供たちが、くるくる回りながらの登場。ダンスのリズムに合っています。長老に会いに行く場面。案内役と長老のせりふは、いつもよりはっきりしています。

最後は、フラフープ。みんなが自信をもって、披露できる2年生の十八番。絶対の自信をもって、子供たちは楽しんでフラフープを回しました。大きな拍手に、満足げな子供たちの表情。「ハッピー・ハロウィーン」のせりふとともに、ほっとした安堵感とやり遂げた満足感が、表情ににじみ出ていました。

本当によくがんばりました。「学校で一番すてきな学習発表会を届けよう」という思いは、会場のみなさんに伝わったことでしょう。



本番後のRさんの振り返りです。

ぼくは、学習はっぴょう会が始まる前は、きんちょうしすぎて、心ぞうがドキドキしていました。本番では、わくわくした気持ちで、よこうよりもちょっと大きな声を出せたので、よかったです。フラフープも、前より上手にできたので、うれしかったです。そして、たくさんのはくしゅをもらったので、きんちょうがなくなって、ことばが言えました。きんちょうかんとたたかえて、とてもよかったです。



演技が始まる前、緊張しすぎて、表情がとても硬くなっていたRさん。自分らしさを出そうと、ドキドキする気持ちと、幕の袖で戦っていました。やり終えた時、緊張感と戦えたことに、よかったと言えるまでに成長したところが素晴らしいです。

出番前、このRさんが緊張しきっていた時、仲良しのTさんが、「きんちょうしているの？練習とか本番とか、気にしないでやったら、緊張しないよ」と優しく声をかけてあげていたことを後で聞きました。とてもうれしい話でした。自分を支えてくれる友達がいることで、がんばる勇気が出てきて、緊張感を克服することができたのでしょう。

Hさんの振り返りです。

…げきのはじめ、ぼくはドキドキしませんでした。それは、しゅう中してやったからです。えんぎ中もしゅう中して楽しくできました。フラフープも、楽しくゆっくり回すことができよかったです。おわった時、いい気持ちでした。自分の心としょうぶしてよかったです。自分の目当てをしっかりと立てて、おきやくさんを楽しませるという目当てをまもられて、よかったです。さいごに、はくしゅをいっぱいもらってうれしかったです。

Hさんの「パワフルっ子度」は、130%までいきました。始まる前、家族に上手ではないと言われたらとどうしようかと心配で、ドキドキしていました。しかし、劇に集中することでドキドキを吹き飛ばし、自分の目当てをやり遂げました。特に、最後まで目当てを意識して劇に取り組めたところが、すばらしかったです。



「自分が努力し続けて手に入れた十八番は、全力を尽くす場において、自分を支えてくれるとともに、その美しさは他者の心を打つ」

そのようなことを子供たちの姿から学ばせてもらった学習発表会だったことに感謝します。

